

三沢初子―伊達綱村の母―

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第3回

出身

初子は寛永十七年（一六四〇）、牢人三沢清長の長女として因幡国鳥取（鳥取県鳥取市）で生まれました。清長の妹紀伊が孝勝院（2代藩主伊達忠宗の正室徳川氏、振姫）に侍女として仕えていた関係からか、清長一家は江戸に移り住んでいます。両親と死別した承応三年（一六五四）か、それ以前に、初子は紀伊の縁で伊達家に奉公したと思われま

その後、初子は伊達綱宗の側室として長男綱村を生みます。綱宗の3代藩主就任七カ月後の万治二年（一六五九）三月、下屋敷の浜屋敷（東京都港区）でのことでした。

良妻賢母

綱宗は、その不行状によって万治三年八月に強制隠居させられ、その跡をわずかに継ぎ、4代藩主となります。

ところで、初子は伊達騒動を題材とした歌舞伎や浄瑠璃の「伽羅先代萩」で幼君を守護する乳母政岡のモデルともされます。しかし、藩主である綱村は外桜田（東京都千代田区）の、寛文元年

（一六六一）からは愛宕下（東京都港区）に移った上屋敷で、初子は綱宗とともに品川（東京都品川区）の下屋敷で暮らしていました。早世が珍しくなかった当時であつて、綱村に続く男子の出生も望まれたことでしょう。

初子は寛文元年に次男（村和）を生ます。写真は次男が生まれてあまり時を経ないころに初子が紀伊に宛てた書状です。幼子への綱宗のむつまじい様子を記し、初子の安堵と喜びがくみ取れます。同五年には三男（宗賢）も生んでいます。

ところが、いわゆる伊達騒動が落ち着いた翌年の寛文十二年三月に初子は浜屋敷に住居を移します。遠く離れた品川屋敷と異なり、浜屋敷は愛宕下の上屋敷とはほど近い距離にあります。親政を始めたばかりの若き藩主綱村を支えるため、綱宗が送り込んだものでしょう。綱宗は初子に信を置いていたといえます。

初子の住居は「母公の第」とされ、浜屋敷だけでなく、麻布（東京都港区）の下屋敷や愛宕下の上屋敷にも設けられました。延宝四年（一六七六）には浜屋敷が上屋敷となります。初子と綱村が同じ上屋敷に暮らしたのはごく短期間で

したが、綱村はその時々々の「母公の第」を頻繁に訪ねています。一方、初子は「母公の第」に住みながら、折々品川の綱宗のもとに帰つてもいます。

綱村・初子・綱宗の三者は、それぞれ書状で緊密に連絡を取り合い、綱村が江戸にいたときは、初子は常に綱村と対面していました。母初子は、幕府によって行動が制限されていた父の役割も幾分かは担っていたことでしょう。綱村はそのような母を敬愛していました。初子は、当時の伊達家にとって、まさに良妻賢母であつたのです。

初子は貞享三年（一六八六）二月、綱村が国元仙台に在る間に病没します。のちに綱村が隠居生活を送る麻布屋敷でのことでした。



三沢初子がすでに尼僧生活を送っていた紀伊（法名は日通）に宛てた書状 仙台市博物館蔵 離れて暮らしていた綱村の様子は具体的に記されていない

オリジナルグッズのご紹介

仙台市博物館では、当館の収蔵資料をもとにしたオリジナルグッズの作成・販売をしています。



三沢初子の帯 関連グッズ
当館所蔵の三沢初子所用の帯12筋の中から、「白綸子地雪輪に春草文様帯」などをあしらったオリジナルグッズを3点販売しています。ご自宅から贈り物まで、幅広くご利用いただけます。

左から、ぼち袋(500円)、ミニクリアファイル(210円)、一筆箋(310円) ※価格はすべて税込です。

お求めはこちら
カネイリ ミュージアム ショップ
KANEIRI Museum Shop 6
所在地: 仙台市青葉区春日町2-1
せんだいメディアテーク1階
営業時間: 10時~20時(毎月第4木曜日休)
電話番号: 022-714-3033
※三沢初子の帯関連グッズは、お取り寄せでの取り扱いになります。



その他のグッズ・刊行物の紹介や、購入方法は博物館ホームページでご案内しています

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く
▶博物館X(旧ツイッター) @sendai_shihaku
※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。